

## 海洋高の生徒ら山の学習

大江山で 森と海のかかわり知る

福知山市大江町の大江山で1、2両日、宮津市の府立海洋高校の2年生が森林体験学習をした。机上の学習や山での実習を通じて、海とかかわりの深い山林の仕組みについて学んだ。

訪れたのは海洋科学科の16人。生徒たちは現在、海洋環境の授業で、森と海のかかわりを学習。山の環境が海に影響を及ぼすことから、初めて大江山での実習を計画した。府の「出前語らい」事業を活用し、中丹広域振興局から林業普及指導員の派遣を受けた。初日は仏性寺の大江山

グリーンロッジで、京大フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所の中西麻美助教の講義を聞き、森林の働きや大江山のブナ林などについて教わった。このあと鬼嶽稲荷神社付近の大江山を散策。天然林と人工林の違いなどを確認した。

2日目は再び大江山で実習。指導員らのアドバイスを受けながら、4班に分かれて、森の「健康診断」をした。植木のヒノキの樹高や直径、林間木の密度などを調べ、伐採も体験した。活動結果は同ロッジで班ごとにまとめ発表。生



大江山の植物の名前なども詳しく調べる生徒たち

徒たちは落ち葉などのたまり状態も詳しく説明し、「普段は海のことばかり学習しているが、山

の大切さがよく分かった」などと感想を話していた。